

## H29年 年始訓示

皆さん、新年明けましておめでとうございます。  
清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年末年始は、リフレッシュできましたか？いきなり、御用納めの日の夜に地震が発生し驚きましたが、何事もなくホッとしました。当日は、担当課はじめ関係職員の皆さん、対応ご苦労様でした。

今年も6日間の休みでしたが、天候も穏やかで、あっという間に過ぎてしまったのではないのでしょうか。

年始にあたり、皆さんに何を話そうかと考えておりましたが、「国際ロータリークラブ」の標語となっている“4つのテスト”という言葉を紹介합니다。

これは、ハーバート J. テーラーが創案したのですが、人の行動や言動においては、次の4つの視点に照らしてから行うべきであるということです。

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるかどうか

彼は、この考え方をビジネスの世界で実践しています。あまりにも道徳的な要素を多く含んでいるため、目標は非現実的だと思われていましたが、見事に赤字会社を立ち直らせることにつながりました。詳細については、ネット等で調べることができると思いますので、後で確認してください。

まさに、この考え方自体は、私たち公務員の世界では、当たり前のように感じられるかもしれませんが、本当に実践できているのでしょうか？今後とも、自分の仕事を進めるうえで意識してもらえればと願っております。

ここで、今年の村政について、いくつか申し上げておきたいと思います。

地方自治体にとって、人口減少社会への対応は大変重要であります。それぞれの自治体が持っている地域性や特徴に合わせて対策を講じなければなりません。本村は、現時点においては、まだ若い世代が多く、保育所や学童クラブの受入環境を整備していくことが喫緊の課題であります。将来を見据えた場合に必要となる施策も同時に進めていかなければなりません。子育て支援は、社会全体で支える時期に来ており、「とうかい版ネウボラ」の整備は急務であると認識しております。

シティプロモーションは、実践段階に入ります。今月10日発行の広報とうかいでも取り上げていますが、本村の魅力をどのように発信していくか？ターゲットを明確にしてアプローチしていかなければなりません。さらに、村民の皆様にも村の魅力を再認識してもらうことが必要ではないかと考えておりますので、全庁一丸となって取り組んでまいりましょう。

本村の高齢化率は、約24%となりました。確実に高齢者人口が増加している中で、地域包括ケアシステムの整備が必要であり、医療と介護の連携はますます重要となってきます。特に、介護予防については、住民で支え合う活動を支援する手法を取り入れ、10団体が活動を始めています。元気な高齢者は、地域の担い手としても、貴重な存在であると考えておりますので、認知症予防対策も充実させながら、その健康づくりや生きがいを支援していかなければなりません。

「とうかいヘルスマイレージ」は内容を充実したところですが、村民の皆さんがどれだけ参加しているのかと考えると、やや物足りなさを感じます。健康づくりへの意識を定着させること、行動を習慣化させることは、大変難しいものではありますが、更なる普及啓発に取り組んでいきましょう。また、去年は、大塚製薬と連携協定も締結したところですので、民間の力も活用しながら、村民の健康づくりへの取り組みをさらに強化してまいりたいと考えております。

アイヴィルがオープンして約1年となりますが、なかなか上手く活用できていないのではいかという声を聞いています。創業支援の拠点施設としてはまずまずのスタートであったと思いますが、観光情報の発信拠点という点では創意工夫が必要であり、関係者と協議しながら充実させていきたいと思っております。また、商工会との連携においては、職員派遣により少しずつ成果が見えてきましたので、更なる地域経済の活性化に向けて、様々な施策展開に取り組んでまいりたいと考えています。

地域における福祉や教育、環境などの住民活動は、組織の継続や担い手の育成といった点で、大きな変わり目を迎えているのではないかと感じています。ただ、地域によっては、シニア世代がまだまだ頑張っていて牽引しているところもあり、村内を一律で考えるわけにいかないとも考えておりますので、地域の将来を見据えながら、関係者と十分な話し合いを続けていかなければならないでしょう。

原子力災害における広域避難計画の策定は、いよいよ大詰めを迎えていると思います。避難先市町村との協定締結や避難訓練の実施などを通して、できるだけ計画の実効性を高めながら、村民の皆さんにご理解いただける計画としてまとめていきたいと考えております。

また、「原子力人材の育成・確保」という新たな施策については、地方創生の主要事業として、インターンシッププログラムの充実強化などを図りながら、当初の目標を達成できるように、具体的な成果を導き出していきたいと考えております。

本村の認定農業者には、比較的若い世代の方も多く、非常に楽しみな部分もあると認識しております。農業を産業として振興していくには、意欲のある農業者を支援することが重要であります。一方では、生産基盤である農地をどのように保全活用していくのかということも大変重要になってまいります。耕作放棄地を生じさせない取り組みを強化しながら、本村に合った農業を確立できるよう、引き続き、関係者と検討を重ねていかなければなりません。

国道245号線の拡幅は、現在、原研前～原電前の区間で工事が本格的に行われていますが、今年には更に工事が進捗されるものと期待しています。一方で、国道6号線の拡幅については、なかなか先が見通せませんので、今年には要望活動にも工夫を凝らしながら、国への働きかけを強化してまいりたいと考えております。また、阿漕ヶ浦公園の整備や東海駅西口前広場の整備も国体準備と調整しながら着実に進めていかなければなりません。なお、土地区画整理事業については、中央地区の整備が佳境に入ってくると思われませんが、その他の地区についても早期終結に向けた取り組みを強化していく必要があります。

さらに、阿漕ヶ浦周辺地域の活性化策の検討についても、多様な意見を集約しながら、村民の皆さんへ未来図が示せるように取り纏めていきたいと考えております。

「(仮称)歴史と未来の交流館」整備事業ですが、私は、今年の最重点課題であると認識しております。若い世代を中心としたあらゆる世代へ本村の歴史を伝える拠点施設であり、村民の皆さんに親しんでもらえる交流館となるよう整備していかなければなりません。引き続き丁寧に取り組んでまいります。また、2019年茨城国体に向けた準備も本格化してまいりますので、庁内体制を整え万全を期していきます。こちらも全庁一丸となって対応して参りたいと考えておりますので、共に頑張りましょう。

今申し上げたもの以外にも、ファシリティマネジメントの推進、村税の徴収確保、バイオマス利活用の推進など、各課において課題は多いと思いますが、皆さん方には、各職場で、与えられた職務に全力であたっていただきたいと思っています。

今年も、忙しくなるとは思いますが、健康が第一ですので、一人ひとりが心身の健康には充分注意してください。そして、管理職の皆さんには、職場環境や組織のマネジメントといった点に、細心の注意を払っていただくようお願いいたします。

結びに、今年一年が、皆さんにとって良い年になりますように、そして村としてもすばらしい年になりますよう祈念いたしまして、年頭のあいさついたします。

今年も一緒に頑張りましょう。